

1. はじめに

平成 25 年は、伊豆大島の甚大な土砂災害の他、台風や大雨により全国各地で浸水被害が発生した。

本年 7 月に発生した山口・島根豪雨では梅雨前線等の影響で島根県西部、山口県北部等において記録的な大雨となり、洪水による被害が発生した。また、9 月に発生した台風第 18 号は日本上空を東海地方から東北地方へと進み、近畿地方から東北地方にかけ広く被害をもたらした。

水害被害の防災・減災を図るためには、水害の実態やメカニズムを把握・理解し、効果的な対策の検討や実施に活用していくことが重要であるが、これまで洪水に関する災害調査については河道内の土砂・水理現象や河川管理施設の被災状況に関する調査が中心で、堤内地における人や資産への影響については十分な調査が行われてこなかったのが現状である。このため平成 24 年度から、国土技術政策総合研究所水害研究室では顕著な水害が発生した場合に、堤内地における氾濫流や浸水状況の推定や家屋等被害状況の把握を目的とした現地調査、河川管理者や市町村の防災担当者を対象とした災害対応に関する聞き取り調査、各種資料による人的・物的被害の把握等を行い記録することとしている。

本調査は平成 25 年度に発生した山口・島根豪雨と台風第 18 号により発生した水害について調査したものである。被害に関する資料の収集・整理の他、山口・島根豪雨については山口県を対象に平成 25 年 8 月 5,6 日に現地調査を、平成 25 年 12 月～26 年 1 月にかけて山口県庁、山口市、萩市、中国地方整備局から災害時の状況について聞き取り調査を行った。また、台風第 18 号については滋賀県、京都府を対象に 9 月 18,19 日に現地調査を行い、平成 25 年 10 月～11 月にかけて滋賀県庁及び高島、甲賀、南部の各土木事務所、栗東市、高島市、甲賀市、京都市、福知山市、近畿地方整備局から聞き取りを行っている。